

# 令和6年度 第2回がまごおり協働まちづくり会議 会議議事録要旨

日 時 令和6年10月7日(月) 午前10時～

場 所 蒲都市役所 本館3階 304会議室

## 1 開会

事務局より、配布資料の確認、会議について説明。

## 2 議題

### (1) 協働まちづくり事業助成金制度について

事務局より、協働まちづくり事業助成金事業について説明。

- ・助成金の相談が多くある中、利用まで行けていない相談も多くあり、どういうところを後押ししたらよいのか、今後に向けて検討する必要がある。
- ・助成金を自分たちが欲しい物品に使いたいだけでは駄目だが、何を目標とする活動なのかをよく聞いてあげること、引き出してあげることが良いのではないか。
- ・公園でのマルシェなど、相談者に対し、実施できる場所がどこにあるのか、どこへ申請し許可を取るのかなどを教え、利用の相談は相談者が自ら動くことが必要ではないか。もし、断られたとしても、そういう利用の要望があることを管理者等が知ることができるため、声を届けることができる。
- ・個々のやりたいことの内容や、まちへの思いが見える化できると、助けや協力ができるため、そういう仕掛けがあると良い。
- ・どういうものが助成金に当てはまるのか、判断基準があると良い。
- ・まちづくりと聞いてもどこまでがまちづくりなのか、対象範囲が分からない。
- ・相談の状況として、制度の周知が進み、今までは既存団体からの相談が多かったが、個人のアイデア段階での相談が来始めているのは良い動きだと感じている。
- ・個人のアイデアから仲間づくりや広がりを作る方向性を作っていきたい。
- ・人がつながる方策は他の自治体でも多く取り組んでいるため、良い所を取り入れて行けば良いのではないか。
- ・講座や話を聞くなど、気になることがある人が気軽に会える場をもっと作っていけば良い。その中からつながっていくのではないか。
- ・まちづくりセンターが中心となるということよりも、相談の機会を多く作っていくことはもっとできるのではないか。

### (2) 協働モデル事業について

事務局より、協働モデル事業について説明。

- ・若者の提案で終わるのではなく、やってみれば良い。組織を作って支援体制を考えるよりも、実際にやってみて、何が足りないのかを考えて行けば良い。

- ・若者が居場所を求めているのであれば、どこか間借りできるところで日替わりでやってみても良いのではないかな。
- ・同世代と知り合うことができ、大人ともつながりができる場ができることは良いことだと思う。
- ・若者議会に参加する子がいることがすごい。なぜ若者議会に参加しようと思ったのか気になるところ。
- ・ボランティアの拠点を作るのであれば、学校とのつながりがあると良い。
- ・支援組織をボランティアで運営できるのか疑問に思う。
- ・若者の拠点は、どこか1か所ではなく、各地域で格となる若者が地域へ働きかけ、生まれ行くと良い。
- ・若者が夏休みに学校等で外国人に勉強を教えるなどに発展し、日本語教室の発展にもつながると良い。
- ・若者の居場所が何かのイベントであっても良いと思う。具体性があると参加しやすいのではないかな。
- ・子どもたちが考えたことをやっていく際、若者単独で動くことは難しく、大人側から導いてあげることが必要だと思う。
- ・居場所を作って話し合えようというよりも、活動をしている人などと何か関わりを持つところから、まちづくりへ発展していく方が早いのではないかな。
- ・助成金でスタートした地魚の活動を9年続ける中で、色んなところとの関わりが増え、事業が拡大している。
- ・子どもたちへこんなことをやってみようと言っていると話をすると、興味を持ってくれる子は積極的に関わってくれるため、そういう子とつながっていくことが大事なのではないかなと感じている。
- ・若者にやってみようよ、というものは、行政も一緒にやっていけば良い。せっかくやる気になっているのであれば、それを一歩でも動かしながら、方向性を考えて行くことが大事。
- ・今回の提案には2つの側面があると感じている。一つは、若者の自主的な活動を支援していくこと、もう一つは、行政の立場で様々な計画策定など、行政のまちづくりの仕組みの中に若者の意見を入れていくこと、両方の側面について考えていかなければいけないと考えている。
- ・例えばイベントでも、企画段階など最初から若者の関わりを作り、伴走して一緒にやりながら、実体験として仕組みづくりへつなげていく方が良い。

### (3) 協働のまちづくりの指針について

#### <指針10について>

- ・サロンや居場所づくりを求めているのは若者だけではない。多様な主体によるまちづくりに広がっている中、お互いを知り、意識できる機会の必要性を感じている。まちづくりセンターでというよりも、経験者の話を聞いてもらう方が、次の展開に具体的に繋がりがやすい。
- ・1回目のサロンでは、ワーキングの委員が話題提供をする。活動の中で仲間たちが

悶々としている思いを話し、情報交換をすることで、新たな気づきや新たなつながりなど、次の展開への機会としていきたいと考えている。

- ・まずはサロンをやってみて、まちづくりを自慢する場所ではなく、悶々と抱えていることを話しができる場所としていきたい。

- ・サロンは、活動している方が沢山いるので、どんどんやっていけば良い。

<指針3について>

- ・地域の困りごとに対する展開で動いているが、市民の力だけでなくプロの力も借りながらなど、広い視野での展開が必要と感じている。福祉に関わる事業所の方々と話をする、地域とのつながりを作っていきたい中で、地域の方々や地縁組織の方々と話をする機会がないということも聞いており、今後の展開を模索している。

- ・関心があること、好きなこと、得意なことから入り、自分はこんなことをやりたいといったまちづくりの展開に行ける良い。

#### (4) まちづくり賞の選考について（別紙4）

令和6年度まちづくり賞候補者推薦書の提出は、令和6年11月22日（金）までをお願いいたします。

### 3 その他

- ・第3回 12月9日（月）10時～ 304会議室